

■文部科学省初等中等教育局特別支援教育課主催

「第2回特別支援教育全国フォーラム」から

12月8日(土)に開催

静岡県三島市立北中学校の実践発表

この学校は、平成15、16年度「特別支援教育推進体制モデル事業」の指定を受け、「一人ひとりの教育的ニーズに応じる」という研究に取り組みました。

生徒数620人で通常学級17、特別支援学級3という規模の学校ですが、本事業の指定を受け、一人ひとりの「できない原因は何か。」に着目して、組織的に取り組んだ結果、学力テストも市内7中学校の中でトップになるなど学習面、生徒指導でも大きな成果をあげています。

今回は、その研究の概略をまとめてみました。

【研究の概略】

- 研究テーマ「個性や特性を効果的に生かすための支援体制と指導法の工夫」
- 研究の方針「生徒理解とチーム支援の研修」

・医療、心理などの視点も取り入れ、様々な側面からの生徒理解を図る

- 特別支援校内委員会の役割

①「判断の場」としての機能

対象生徒の実態を明らかにし、その生徒の特性に応じて特別支援学級担任や養護教諭の専門的な知識を参考にしながら、全校体制でどのような支援をするかを検討する。

②「調整の場」としての機能

校内支援体制の中では、十分成果が上げられないと判断する場合、その生徒の状況に応じて医療機関、福祉機関、特別支援学校等の外部機関との連携を検討する。

- チーム支援体制（対象生徒の実態に応じて）

①ステップ1

学年組織で対応できる生徒。

②ステップ2

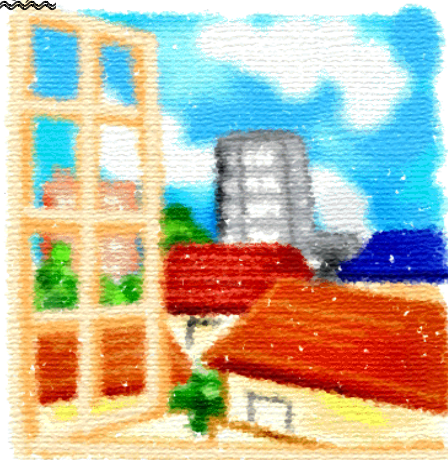
校内組織で対応できる生徒。

③ステップ3

外部機関に協力を依頼し連携して支援に当たる生徒。

- 個別指導計画を作成

- ①自己効力感・自己肯定感を高めるため
- ②集団の中で個別指導に当たるため
- ③チームの共通理解を図るため



【観点】

学習面でのつまずきや生活面での集団不適応行動について

- ・学習者の努力不足なのか？
- ・保護者の躰の問題なのか？
- ・発達障がいの可能性はあるのか？